

第4回三次・安芸高田・広島まちづくり交通協議会 議事概要

日時：令和7年8月18日（月） 10：30～12：00

場所：広島市2階 講堂

出席者：委員13名、オブザーバー1名

1 開会（会長挨拶）

- ・本日の協議会はまちづくりの方向性を踏まえた移動創出ということであり、前回の協議会や幹事会の中でもまちづくりの方向性について議論を重ねていただいた。本日は、そのとりまとめということになるかと思うので、忌憚のないご意見をいただきたい。

2 議事（1）3市連携したまちづくりの方向性を踏まえた移動創出に係る課題

資料1「各地域の事例紹介」を委員より説明後、資料2「3市連携したまちづくりの方向性を踏まえた移動創出に係る課題」により、各エリアごとと3市連携した移動創出に係る課題について共有後、委員より意見あり。

【呑谷委員（三次市）】

- ・第47回三次きんさい祭は、三次町・十日市地区といった三次駅のある中心地で行われるまつりで、44団体2500人がパレードし、3万5000人ぐらい来場し、いろんな方面から観にくる集客力のあるイベントとなっている。
- ・みよし市民花火まつりは、去年は1万5000人の方が来られて、かつては5万人ぐらい来ていた。コロナ禍を経て規模が若干小さくなったのもあるが、たくさんの方に来ていただいている。特に広島方面から多くの来客があり、JRに臨時列車を実行委員会から依頼していると聞いている。

【高下委員（安芸高田市）】

- ・おだ村まつりは、安芸高田市内の吉田口駅周辺の地域振興会が地域づくりに非常に熱心に取り組んでいる。駅付近のファミリーマート小原店、就労センターが中心となり祭りを開催した。このファミリーマート小原店は、かなり特徴のある運営をしており、来店者を増やすために地域振興会とJAに商品を提供してもらい、地域製品の取り扱いがとても多い。
- ・吉田口駅周辺の商店街が無くなったこともあり、地域住民が協力してファミリーマートを誘致しており、今後も、地域で吉田口駅を盛り上げる取組をしっかりと進めていく意向。
- ・また、まつりでは芸備線との連携として、芸備線に乗って参加された方に500円の商品券を渡し、メリットがあるといった仕掛けをしている。アルコールを提供することで車を使わない移動が促進され、小さな祭りだが、芸備線の利活用として可能性のある取組だと思う。

【鈴木委員（広島市）】

- ・「高陽地域・白木地域活性化プラン」は、高陽地域・白木地域においてJR芸備線を軸として両地域の活性化を図るために、住民が主体となりワークショップを開催し、その検討結果をとりまとめたものである。

- ・高陽地域と白木地域の中心を縦断するように芸備線が走っており、これまでは両地域単体で考えていたが、この高陽と白木を結ぶ芸備線を軸とした形で活性化ができないかということで、両地域が一緒になってプランを策定した。
- ・地域の目指すべき姿として、高陽は「多世代にとって、安心してずっと暮らし続けたい地域」、白木は「自然とともに、活気あふれる楽しい地域 いつでも戻ってきたくなる地域」を個々の目指すべき姿として掲げ、併せて両地域が「“地域のよさ” や “つながり” を活かし、いつまでも安心して暮らせる地域」を掲げて取り組むことを地域住民主体で決めている。
- ・高陽地域のプロジェクトでは「みんなで使おう芸備線！！～もっと便利な芸備線にしよう～」があり、短期的には、住民意識アンケートやＪＲとの地域イベント、それから地域の特産品、例えば「狩留家なす」といったものの宣伝がある。中長期的では、駅周辺への飲食店の誘致、パークアンドライドや駅周辺の整備がある。
- ・白木地域のプロジェクトでは「鉄道X（エックス）」があり、短期的には駅舎を利用したカフェとして、コンビニや郵便局のような企業と協力しながら駅舎の活用に取り組もうとしており、便数が少なさや二次交通との接続の悪さを逆手にとり、駅舎を拠点にする発想である。中長期的では、列車ホテルの設置やホテル列車、雲海列車の定期運行を目指しており、実際に今年の「いばら de ホタル」の際には、ＪＲの協力で特別に井原市駅に快速が停車した。
- ・協議会は、三次・安芸高田・広島という連携した取組だが、この高陽・白木は広島市版、安佐北区版として、地域単体ではなく連携して、芸備線を軸にして活性化を図るという視点である。

【田中委員（広島市安佐北区）】

- ・白木エリアの事例を紹介する。5月18日に開催された「わくわく志和口駅前フェスタ」は、芸備線開業110周年を記念して開催されたイベントで、駅前にある「りょうま駅長記念館」を運営している「ネコ駅長と地域の未来を考える会」が主催し、ＪＲや高南地区ＬＭＯの協力の下で開催された。駅構内では、子どもによる駅長体験や待合室でのパネル展示。駅構外では、子どもたちによる「よさこい踊り」やマルシェが開催されるなど、地域の内外から多くの方が参加した。
- ・6月7日に開催された「いばら de ホタル」は、「井原わくわくプロジェクト」という地域団体が、毎年、井原市駅の近くの地元企業の敷地を借りて開催している。このイベントの特徴は、芸備線の利用促進と絡めており、芸備線を利用した来場者へのオリジナルグッズの配布やＪＲの協力の下、通常は快速が停車しない井原市駅に、イベントの開催時間に合わせて快速列車を停車させた。約100人の方がこの快速列車を利用して来場され、過去最高の盛り上がりだったと聞いている。

【渡邊会長（学識経験者）】

- ・各地域の事例紹介をしていただき、それぞれ地域の個性を生かしたまちづくりが進められており、いろいろ取り組まれていると感じた。地域団体の方々が取り組んでいるが、お互いが往来する形になると、もっと良いと思ったので、引き続きこういった取組が進めば良いと思う。

【呑谷委員（三次市）】

- ・三次市から広島方面への通学・通勤者が一定数いるため、その通勤・通学に必要なダイヤにつ

いて様々な要望が、毎年届いているため、できるだけ要望に応えることが可能なダイヤを目指したい。また、車両等の環境等を含めての対応が必要と考えている。

- ・移動創出に係る課題として「二次交通の確保」があり、各交通モードと相互にスムーズな乗り継ぎの実現として三次駅から各方面へのバス、主にはバスということになる。それから日常利用におけるパーク＆ライドの充実として、三次駅周辺の駐車場がまだまだ不足している状況であり、今後の課題だと思う。そして周辺に点在する観光スポット等との連携として、三次もののけミュージアムもあるが、酒屋地区に観光施設が集まっており、広島三次ワイナリーや奥田元宋・小由女美術館、トレッタみよしという地元の製品の販売所。その近くには中央病院があり、中央病院方面のバスが平日はかなり多いが、土日になると病院行きのバスの便数がぐっと減るので、二次交通の確保は今後も課題だと考えている。
- ・それから「ダイヤや環境の整備」で、平日朝夕のダイヤ改善及び本数確保として、先ほど言ったように、朝の通勤通学時または帰宅時間のダイヤの改善要望が利用者から出ている。駅舎の施設を活用した待ち時間の多目的利用これは三次駅を指しており、三次駅にはかつてコンビニがあった場所が、現在は、芸備線の写真展示スペースになっている。駅は学生等の利用も非常に多く、学生の待ち時間に勉強や話をしながら待つスペースがあれば、次のＪＲやバスを待つ時間に使えるので、多目的利用できる設備が必要だと考えている。車内環境の改善については、芸備線の車両が随分古くなっているのも、乗り心地であるとか、いろいろ要望が出ているので、車内環境の改善も課題として挙げている。

【高下委員（安芸高田市）】

- ・甲田エリアでは、北に甲立駅があり、その下に吉田口駅がある。安芸高田市の中心である安芸高田市役所は吉田町にあり、芸備線は安芸高田市の中心部を通っていない。このため、甲田エリアは、芸備線の駅の周辺と吉田地区を結ぶ二次交通が充実できていないのが課題である。
- ・まず、甲立駅周辺は、病院や診療所がかなり充実しており、店も一通りの買物が可能。この甲立駅周辺で１つの生活圏ができているが、西側の吉田地区とのつながりというのが弱いことが課題。これについては、移動創出に係る課題で、二次交通の整備が必要としている。
- ・向原エリアも、スーパーとか病院といった生活圏に必要なものは概ね揃っているが、甲田エリアと同じように生活圏の中ではまとまっているが、吉田とのつながりが少し弱いと感じる。
- ・もう１つ特徴として、「学び」で向原高校が駅からすぐ近くにある。この向原高校の生徒の特徴として、芸備線を利用して通学している人が７割以上である。そのため、安芸高田市内からよりも安佐北区、三次、甲田など、芸備線沿線が主な通学者がいる地域という特徴がある。
- ・先ほど吉田とのつながりが弱いと説明したが、「沿線地域の交通に係る要検討事項」にある東広島高田道路、これまでは向原と吉田を峠でグネグネと上がって降りていたが、トンネルが開通した。ここに向けての二次交通を、トンネルを利用してアクセスを向上させ、吉田の中心部とつなぐことを来年の４月以降に実現するために調整している。
- ・甲田と向原について話してきたが、いずれも近隣の広島市や三次市につながる玄関口ということだと捉えている。ここをしっかりと利用できるようにしていくことが、この協議会の中で実現していくべきことだと考えている。

【田中委員（広島市安佐北区）】

- ・白木エリアにおける移動創出に係る課題としては、二次交通の確保と駅舎等における利用環境の整備の2つの課題、それぞれの課題に(1)～(3)、(1)～(4)として課題を整理している。このような課題を踏まえ、今後、芸備線に期待することとして、1つ目は乗継を円滑にするための運行ダイヤの調整や、朝夕のラッシュ時における便数の充実。2つ目は、観光スポットやイベントを巡る列車を定期的に運行。3つ目は、地域団体による駅舎の利活用に向けて、迅速かつ柔軟に対応すること。4つ目は、芸備線と他の交通モード間における乗継や芸備線の駅間の移動が円滑にできるよう、芸備線のキャッシュレス化、ICOCAを推進すること。先日自分で乗車した時にも、キャッシュレス化は観光利用や県域外の方のためにICOCAは大事なツールだと実感した。
- ・高陽エリアにおける移動創出に係る課題としては、道路混雑解消、二次交通の充実・確保、駅舎等における利用環境の整備、このそれぞれの課題について、資料に記載されたとおり、3つほど課題を整理している。こうした課題を踏まえ、今後芸備線に期待することとして、1つ目は、自家用車から芸備線利用へシフトすることによって、道路混雑が解消に向かうよう、朝夕ラッシュ時における「便数の充実」や「運行ダイヤの調整」を行うこと。2つ目は、駅周辺の駐輪場・駐車場、待合施設の整備による「交通結節点」としての機能を向上させること。3つ目は、先ほど白木エリアの事例で紹介したように、駅舎や駅周辺施設を活用したイベントなどを開催することで、地域のにぎわいを創出すること。こういったことを期待していきたいと思っている。

【荒木委員（広島市東区）】

- ・戸坂エリアの移動創出に係る課題として、道路混雑の解消及び公共交通の利用促進、二次交通の充実確保が挙げられる。こうした課題に対して、既設の駐輪場が戸坂に200台程度はあるが、駐輪場とか駅前広場をさらに充実させることと、交通結節点の機能を向上させて、マイカー利用から公共交通機関の利用に転換を図り、道路混雑の解消や公共交通の利用促進につなげたいと思っている。
- ・また、昨年12月から本格運行しているデマンド型の乗合タクシー「戸坂ともいきタクシー」があり、乗合タクシーや路線バスとのアクセス性の向上、さらには駅舎等の待合環境を改善することで、二次交通の充実や確保につなげていければと思っている。特に駅舎等の待合環境の改善は非常に大きな要因になるのではないかと考えている。
- ・二葉、矢賀駅周辺エリアの移動創出に係る課題としては、道路混雑の解消がある。近隣に大型商業施設のイオンモール等があり、道路混雑の解消が大きな課題だと思う。こうした課題に対して、駅の敷地内にぴーすくろやLUUPといった回遊性の高いシェアモビリティを設置することで、近隣の大型商業施設の利用や大きな地域資源である矢賀一里塚から牛田新町にある不動院までの全長10キロ以上の二葉の里歴史の散歩道に点在する神社等の歴史的建造物を散策するなど、マイカー利用からの転換や駅の交通結節点としての機能向上を図り、矢賀エリアの地域資源を生かしたまちづくりを進めるとともに、道路混雑の解消につなげていければと考えている。

- ・その他両地域とも、広島市が推進している広島型地域運営組織「ひろしま LM0」が設立されているので、こうした組織を通じて、広島市以外の三次市、安芸高田市等で行われる芸備線沿線でのイベント等への参加の呼びかけや、芸備線沿線地域の活性化に向けた協力ができればと考えている。現時点において両地域とも一定の利用者がいるが、こうした課題を踏まえながら、芸備線を利用したまちづくりを進めていきたいと考えている。

【庶務】

- ・全体エリアの説明として、3市連携したまちづくりの方向性として、広島広域都市圏発展ビジョンにおける「目指す都市像」を示している。この方向性に基づく広域的な交流について、要検討事項として2つ示している。1つ目は、来広観光客や広島市側居住者に対する芸備線沿線地域への誘導、2つ目は、沿線地域から広島市中心部へのアクセス性向上である。
- ・先ほどの各エリアの説明内容を踏まえ、全体的な課題のまとめとして(1)駅を中心とした拠点づくり、(2)二次交通の充実強化、(3)広域的な交流促進に資する芸備線の機能強化の3項目を示しており、今後、まちづくりのためのJR芸備線の在り方の検討において、これらの課題に資する施策の検討を行う予定としている。

【戸政委員（広島市）】

- ・3市連携したまちづくりの方向性ということで、第2期広島広域都市圏発展ビジョンが引用されており、私どもがこのビジョンの担当である。この第2期広島広域都市圏発展ビジョンは、令和3年度からの5年間の計画で、今年度末でこの計画期間が満了する。このため、それを踏まえて、第3期のビジョンの策定に向けて検討を進めているところである。
- ・今の経済面、生活面、行政面からの取組について、方向性を変更することはないと思うが、これまでの取組のさらに抜本的な充実強化を図っていききたいので、ローカル経済圏の構築の加速化や、定住促進に力をいれていきたいと考えており、今後進める施策の事務事業の整理を進めようとしている。
- ・その際に、第3期のビジョンに盛り込む施策の事務事業と、本資料に、課題に資する施策の検討を行うとあるが、この施策について相互の連携を深めることによって、より相乗効果が期待できるものもあると思う。一例を紹介すると、既存の取組であるが、広島市HPに広域都市圏各構成市町の地域資源をまとめた紹介や、年4回四季号という形で発行している「り〜ぶら」という広島広域都市圏のイベント紹介の冊子を発行している。先ほど紹介していただいたイベントなども紹介可能な形になっているが、広域都市圏のイベントということなので、この3市以外のイベントも掲載されている。芸備線の活用を行う上では、往来を活発にしていくことが重要なポイントになると思うので、ぜひこういった広島広域都市圏の既存の取組もまた示していきたいと思う。

【加藤委員（学識経験者）】

- ・いくつか質問や意見をしたい。まず高陽地域・白木地域活性化プランでの取組の方向性及び具体的なプロジェクトで、高陽地域の短期的な主な取組に、芸備線の活性化のところで「住民アンケートの実施」とあるが、この後説明があると思うが本協議会の調査事業でも似たようなものが計画されている。この住民主導の地域主体のアンケート調査のほうが短期的な取組であ

り、現時点でどういった検討をされているのか教えていただきたい。あるいは両者の連携や情報の共有ができるのであれば、その内容を取り入れても良いと思う。

- ・2点目は「いばら de ホタル」で、快速列車が停車し、約100名の方が利用したということだが、他にも沿線でイベントが行われているが、同様に列車を臨時停車することは可能か。可能であれば他のイベントでも列車との連携ができると思った。
- ・3点目は、「おだ村まつり」で、地域の振興会の方が熱心に取り組んでいるということだが、以前、安芸高田市で、今年度の高陽地域・白木地域活性化プラン策定過程で行われたような形のワークショップを開催予定と伺ったが、その状況や、芸備線や公共交通を含めた取り組みとなるのか教えていただきたい。
- ・4つ目は、沿線で多くのイベントが行われて、多くの方が芸備線を活用して来場されていることが説明を伺ってわかった。ここに3市連携した移動創出に係る課題がまとめられているが、こうした3市連携した情報の一元化や発信といったソフト面の事も必要かなと思った。広島広域都市圏のホームページで圏域のイベントを発信されているということなので、イベントプラス、こうした「3市連携した取組の一元化や発信」もこちらの課題の中に挙げてもいいのではないかな。
- ・広島広域都市圏で「としぽ」というポイントの発行をされていると思うが、鉄道利用や沿線の施設を利用した時に、そういったものが付与されるといった経済的なインセンティブとの連携などもできたら良いと思う。

【鈴木委員（広島市）】

- ・まず、高陽白木の住民意識のアンケートは、7月ぐらいに本年度のキックオフのミーティングを行い、具体的な中身や対象の範囲、どういうやり方をするのかといったものは現時点ではまだ決まっていなくて聞いている。
- ・したがって、今後、この協議会でやるアンケートとどうリンクするかは現段階では何とも申し上げられないところではあるが、こちらはあくまで住民主体でやっていくので、おそらく芸備線利用に関する内容についても、アンケート内容には盛り込まれると思っている。その内容や範囲、結果については、できる限り共有はしたうえで、協議会のアンケートがより実効性のあるものになるための協力は惜しまないと思うので、両者の進捗を気に留めながらやっていきたい。

【奥井委員（JR 西日本）】

- ・それぞれの取組に対して、できる限り協力したいと考えており、「いばら de ホタル」の取組のように快速列車を停車するといった協力をさせていただけたらと思う。
- ・実施にはいろいろな条件があるが、それぞれの皆様方の意見・要望にお応えできるようにできるだけ協力をし、こちらからもいろいろと提案をさせていただければと思う。

【高下委員（安芸高田市）】

- ・ワークショップについて、現状として地域振興会が長年同じ形で運営しているが、今後に向けてどういう形がより地域にフィットする形なのか、今の課題を洗い出し、これからどういう形でやっていくと、より皆が生き生きと楽しくやっていけるかなどを話し合う機会を作ること

が目的のワークショップである。

- ・今年度はその課題を洗い出し、どういう方向が良いかを検討し、そこから先は地域振興会の進み具合によって、手上げ方式になるかもしれないが、その課題を新たに解決策の今後のやり方、計画作りをすることを2、3年目でやっていきたいと考えている。
- ・全地域にはならない可能性もあるが、芸備線の利用促進としては、芸備線の沿線で新たに自分の地域で考えていこうとなれば、当然その地域づくりの核として駅舎やその周辺施設などが例として挙がってくると思っているので、安芸高田市でこれから予定しているワークショップが芸備線の利用促進に結びつくことをこちらでも期待している。

【戸政委員（広島市）】

- ・としポの活用という形で答えたい。としポというのは、広島広域都市圏ポイントというもので、何かいいことをしたらポイントがもらえるという形で取組を進めているもので、広島市の経済観光局の方が主管で行っている事業である。
- ・このとしポについては、としポアプリというスマートフォンで利用できるアプリが設けてあり、このアプリでスタンプラリー機能という機能もある。この機能を活用してイベントでスタンプラリーや、まち巡りでスタンプラリーをして、コンプリートした方にはプレゼントをしたり、としポを付与したりする取組もある。
- ・芸備線沿線での周遊で、としポを使った取組があったかは覚えていないが、機能としては活用可能だと思うので、芸備線沿線のいろんな名所や地域資源を巡るというスタンプラリーを、としポを活用して実施することで、芸備線利活用の一つとしても対応可能だと思っている。

【渡邊会長（学識経験者）】

- ・これまでの協議会並びに幹事会においてもいろいろ議論していただき、3市連携したまちづくりの方向性と移動創出からの課題があり共有できたと認識している。
- ・次回協議会からは、この課題を踏まえた施策検討のフェーズに移りたいと思う。また、まちづくりの様々な課題については時々刻々と変わっていくので、協議会の場で引き続き共有したいと思う。

3 議事（2）その他

資料3「今後の流れについて」、資料4「調査事業について」を庶務から説明。その後、資料5「沿線のまちづくりを踏まえた芸備線（三次駅～広島駅）の現状・課題及び鉄道の機能協会について」を奥井委員から説明後、委員より意見あり。

【庶務】

（資料3「今後の流れについて」を説明。）

【渡邊会長（学識経験者）】

- ・これまで4回にわたってこの協議会でも移動創出に係る課題整理ということで共有させていただいた。次回からは、まちづくりを支える交通の方へ入っていくことになる。

【庶務】

(資料 4「調査事業について」を説明。)

【渡邊会長（学識経験者）】

- ・今年度の調査事業としては、クロスセクター効果を分析していこうということである。庶務を中心に調査事業を推進していただきたい。

【奥井委員（JR 西日本）】

- ・本資料は、以前協議会で提示した資料で 2024 年度の実績が出ているので、最新の状況を説明する。芸備線においては豪雨災害後、人口減少と便数が減少しているところがあり、まだ戻ってきていない。収支状況では、収支率は利用の多い下深川から広島においても、運賃で営業費用を 56%しか賄えていない状況。ローカル線においては、列車運行に必要な安全投資と維持補修がほとんどだが、利便性や生産性を高める投資については当社単独で行うことが困難という状況は、何卒ご理解いただきたい。
- ・7 ページは、当社が先ほど資料 2 で説明のあった移動創出に係る課題を抽出し、3 市と全体を通した課題でまとめたものに対する芸備線の現状を表にまとめたものである。三次市の移動創出に係る課題で、三次に住みながら広島方面への通勤通学に便利なダイヤがあげられていたが、それに対して現状は、朝の通勤通学時間帯は列車の選択肢が少なく、各駅停車で所要時間がかかっている。
- ・安芸高田市は、三次市と同様に通勤通学に便利なダイヤを求めており、それに加えてキャッシュレス化の推進を課題として挙げられている。現状として朝の通勤通学時間帯は、広島方面を優先したダイヤとなっており、三次方面に通勤通学できる列車の選択肢が少ない。それから ICOCA については、狩留家駅以北は未整備という状況。
- ・広島市エリアは、下深川以北の市街地エリアにおける便数の確保が課題である。朝の通勤通学時間帯は、広島方面を優先したダイヤとなっており、三次方面の列車の選択肢が少ない状況。駅舎や駅周辺施設の活用といった課題については、駅員が無人の駅や、未活用の駅舎が多数存在している状況。
- ・全体を通して、車両が経年 40 年を超えた古い車両を今も使っている状況であることや、山間部を走っており、先日も雨で運転を見合わせたが、動物との接触等によっても、遅延・運転見合わせが発生しやすい線区となっている。
- ・芸備線は単線で行き違い可能な駅が限られているので、利用が多い区間や時間及び方面を優先してダイヤを設定している状況である。広島都心部の移動需要に応えながら、広域的な利用の利便性を高めるためには、新たな地上設備の新設や改良、また、便数に応じた車両数が必要となってくる。
- ・8 ページでは、そういった状況を踏まえた機能強化策を示している。あくまでも考えられる施策をピックアップしたものである。まず、速達性の向上においては、快速停車駅の見直し、単純に速達性を向上させるためには停車駅を少なくすることが考えられる。それから軌道強化として、木の枕木からコンクリートの PC 枕木へ見直しをすると加速性能が上がることや、線路の線形改良をすることでも速達性が向上可能である。利便性の向上は、行き違いできる線路の新設や信号設備の改良などを行うと、便数を増やすことができる。ICOCA の導入

に関しても、以前から要望をいただいている。快適性の向上は、経年 40 年を超えている車両なので、新型車両の導入や山陽本線で開始している着座サービスが考えられる。ほかにも段差の解消や通信環境の改善も考えられる施策ということで挙げている。

- ・今後、当社において、機能強化策の導入に係る費用面や、どこで何を実施するとか、それに対するスケジュール、工程等を調査したうえで、その実現可能性について自治体の皆様方と連携して検討していきたいと思う。

【渡邊会長（学識経験者）】

- ・芸備線三次駅～広島駅間の課題、機能強化策の案の話と駅舎の活用事例ということで、様々な話題を提供していただいた。これを踏まえて、まずは幹事会で検討を深め、協議会でどういう方向で取り組むのか示していきたい。

【山田委員（広島市）】

- ・JR の資料について何点か質問したい。1 点目が狩留家以北は ICOCA 未整備だが、ICOCA の整備状況は続々と拡大をしており、それに関する基本的な JR の考え方を説明いただきたい。
- ・2 点目は、7 ページの資料の中で、動物との衝突や大雨による遅延・運転見合わせが発生しやすいとあり、以前、安芸高田市からも獣害対策が課題として挙げられていたと思うが、動物や雨量規制への対策として考えられるものがあれば一般論でも構わないので伺いたい。
- ・最後に、車両が老朽化しているということだが、さらに段差など気になる面もある。鉄道に限らず、車両の価格が高騰しているので簡単にはいかないと思うが、新型車両の導入には、相当のコストが当然必要となるが、逆に例えば燃費にあたる部分が良くなるだとか、営業費用の確保につながる要素があるのかを教えて欲しい。

【奥井委員（JR 西日本）】

- ・ICOCA 整備も利用状況を見ながら順次進めているところで、山陽本線も下関まで整備が完了したところである。これから、芸備線等についても線区の利用状況を見ながら整備する段階に入っていくところであり、具体的にどこをどうするかは検討中であるが、狩留家以北についても検討するところである。
- ・それから動物との衝突や大雨の規制、これは非常に難しい問題であり、大雨による規制ということになると、補強設備、斜面やのり面を補強する大規模な工事が必要となる。その辺りをどのように考えるか、当社としてもいろんな線区の間取りや多くの事例があるので、そこをどう整理していくのかというところは課題認識としてはある。
- ・動物との衝突は、芸備線もそうだが、福知山や和歌山の方でも同じようにシカやイノシシと衝突するという状況があり、柵をつくったり猛獣の糞をまいたり、いろんな音を出してみたりと工夫を行っているが、中々これといったものがない。線路全てに柵を設置するわけにもいけないため、難しいところもある。安芸高田市や三次市では、猟師の方に協力していただいております、その費用を当社として協力する取組を行っている。
- ・車両については、40 年を超えた車両がまだ走っているので、燃費の面で費用に対して効果があるかは、示せる数字を持ち合わせていないが、新しい車両は車内の快適性や、並行的な取組等で効果があるのではないかと考えている。

【三島委員（オブザーバー）（広島県）】

- ・今回の協議会に対する意見というよりは、芸備線再構築協議会で進められていることを含めて、皆様方へのお願いというか、ぜひご検討いただききたいことを話させていただければと思う。
- ・先月から芸備線再構築協議会の実証事業が始まっており、JR 西日本の協力により、7 月 19 日～11 月 24 日の土日、休日の広島から備後落合駅までと、それに接続する形で備後落合駅から新見駅まで快速列車や臨時列車が運行されている。庄原地域では、二次交通の整備、観光地へのシャトルバスの運行、地域の賑わいを創出する様々な取組を行っている。本県としてもこの実証事業を通じて、地域への波及効果を最大限にしていきたいと思っているが、3 市の沿線地域全体の活性化という視点からも、庄原地域にとどまらず、芸備線全体で活性化につながることが非常に望ましいと考えている。
- ・今後、再構築協議会のスケジュールでは、来年度 6 月まで実証事業を続けるということになっているが、今後、冬、それから来年の春や、初夏に向けて、旅行商品の作成やイベントの開催なども含めて、3 市においてもぜひ取組の検討をお願いしたい。こうした取組については、県としても積極的に連携し、広報を含めて一緒にやらせていただきたいと思っているので、事務的にもいろいろとお願いをさせていただきたい。

【渡邊会長（学識経験者）】

- ・人の往来を増やすことは、非常に重要なことだと思う。その中で鉄道利用に展開していければさらに良いと感じた。

4 閉会